

【横浜遊技場組合】

組合員ホールが東日本大震災の日（3月11日）に防災訓練等を実施

実施日 平成31年3月11日（月）

【概要】

東日本大震災の際、公共交通機関が麻痺し、駅には帰宅困難者が大量にあふれ、復旧の目処の立たない交通機関を諦めた市民は、徒歩で帰宅されました。

この教訓から、横浜遊技場組合（飯島隆史組合長）傘下105ホールでは、ホールの多くが幹線道路沿いや駅周辺などに立地していることから、災害時にホールを「災害拠点」として、市民にトイレの貸出し、また、休憩所としてホールの開放を行い、併せて備蓄しているミネラルウォーターを命の水として提供できるよう備えています。

東日本大震災が発生した3月11日には、各地の組合員ホールにおいて、大規模地震を想定した防災訓練や、備蓄しているミネラルウォーターや非常食を配布するなど、お客様やホールスタッフの防災意識を高める活動を行いました。（写真提供：東横フェスタグループ）



防災グッズコーナー



災害用の簡易トイレを備えるホールも



防災訓練の様様

